

フィールド レポーター便り



比良の山並みも白くなり、やっと冬らしい季節になりました。フィールドレポーターの皆さんいおかがお過ごしでしょうか。カマキリの卵のう調査も、そくそくと報告が集まっています。どのような結果が出るか楽しみです。

さて、昨年8月に行ったお地藏さんの調査もボランティアレポーターの協力により、入力作業がおわりました。集まったデータや写真は整理されていますので今後の調査のため、多くの人が有効に使っていただけたらと思います。

「お地藏さんと地藏盆調査」中間報告

今回の「レポーター便り」はお地藏さんと地藏盆調査の中間報告です。1月16日に開催しました「フィールドレポーター交流会」は、取りまとめや交流会に参加されたレポーターが、それぞれのテーマでお地藏さんを調べた結果を報告していただきました。どれも非常に興味ある内容で、やはりお地藏さんの世界は奥が深く、今後も調査を継続していかなければならないと思いました。今回は交流会の発表資料をまとめたものを、皆さんに報告いたします。

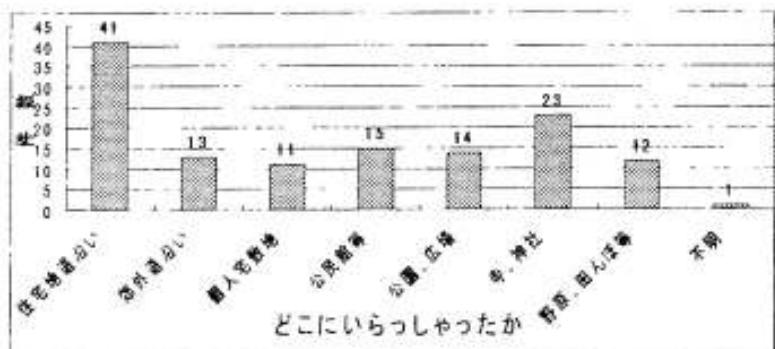
1、地藏調査の概要報告

琵琶湖博物館 桑村 邦彦

まず担当の桑村から今回の調査概要を報告します。報告は7市16町1村の地域から、143件ありました。今回の取りまとめに間に合わなかった報告もありますので、今後件数はもっと増えると思います。それではアンケート調査の集計結果を順に報告いたします。

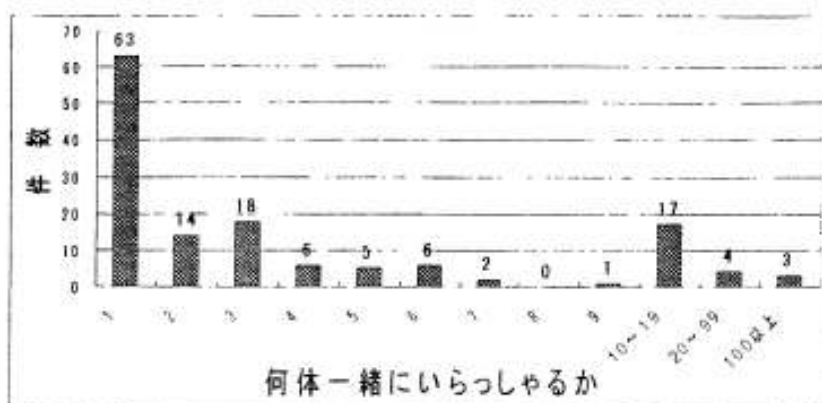
◎どういう所にいらっしゃったか

お地藏さんの周りの様子から、私の判断で分類してみました。一番多かったのは住宅地の道沿いで、次に寺社内、公民館と続きます。今回地藏盆のお地藏さんを対象にしましたから、人の生活の場に近いところが多く報告されたのかもしれません。



◎向かれていた方角

グラフから見ると東から南よりの件数が多い以外は、ほぼ全方位を向かれています。お地藏さんの向きについて、今回は特に傾向は読みとれませんでした。でも北向き地藏さんという名前の報告もありました。方角になにか意味があるのでしょうか。



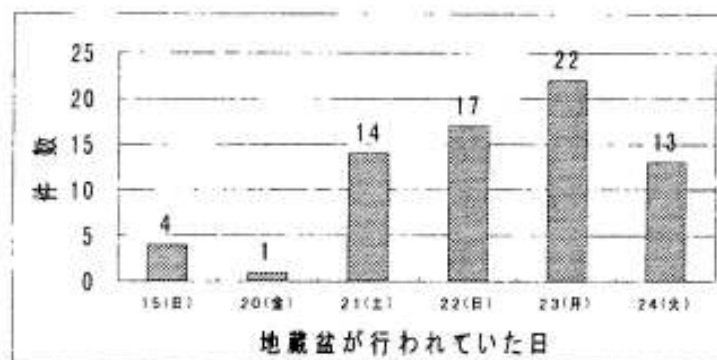
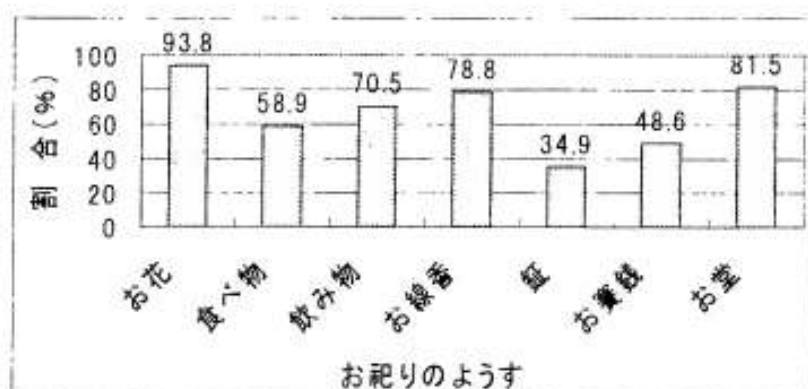
◎何体一緒にいらっしゃるか
やはり1体だけの場合が多く、複数体でも10体までがほとんどですが、300体という報告もありました。

◎何か身につけていらっしゃるか
この項目は複数回答で答えてもらっています。よだれか

けは83.1%、帽子、頭巾等は10.6%、ちゃんちゃんこ、着物、袈裟等は12.0%のお地藏さんがつけていらっしゃいました。(交流会で報告した数値は集計間違いでした。出席された方すみません)

◎お祀りの様子

地藏盆の時期を中心に調査していただいたので、普段よりはなやかな、お祀りの様子でした。供えられていた食べ物は白飯、赤飯、饅頭、団子、餅、野菜類、塩、洗米などでした。

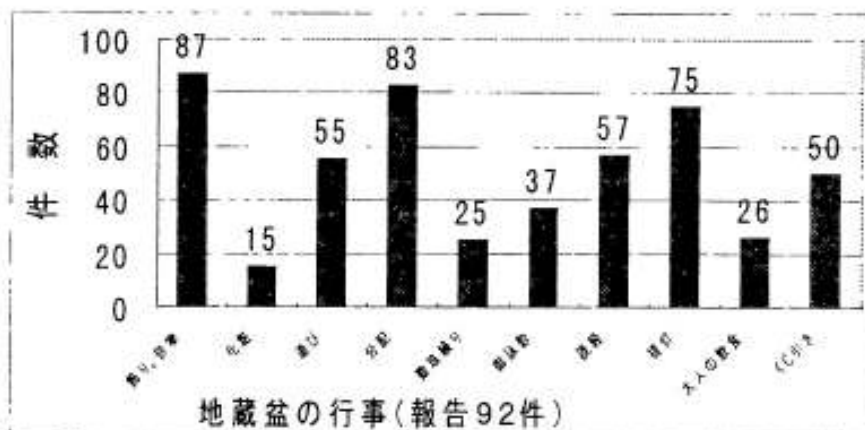


◎地藏盆が行われていた日

これは調査に行った時が地藏盆開催中であつた日を集計しました。地藏盆を2日以上する場合もあるので、実際の状況とは異なると思われます。

◎地藏盆の行事

これは92件の報告があつた「できれば調査」の項目から集計しました。行事関係の遊びには金魚すくい、模擬店、花火、カラオケ、ゲーム、映画、肝試しと多彩でした。



2. 堅田のお地藏さんを見ました。

渡邊 康子

A 4 のお地藏様について、本堅田にお住まいの石島様にお話をお聞きしました。

由来で明らかに分かっているところから、と前置きされて。元禄時代、出町に大火事があった。その時、お地藏様をお祭りできる場所を失ったので、野の内という所へ一時預かってもらった。その後、出町の人々がもとどうりにお祭りできるようになったので、野の内よりもどして、今に至っている。その時のお祭りに用いたお道具箱にその時の年号が書かれている。（8月23日確かめたのですが、お祭りの日でもあり、見る事はできませんでした。）

その昔、この地は石橋といていたが、東の切りに堀田陣屋が出来るので、東の切りの人々が出て、この地にやってきたので、出てきた町、出町といい、今はバス停として名前が知られている。元禄時代より昔にあった可能性があると考えている、とのことでした。

B 6 のお地藏様について、伊豆神社の南にお住まいの、球測様にお話をききました。

今は4軒の講中の方々が1年毎の順番でお祭りをしている。とのことでした。

昔はおおくの方が講中に入っておられて、記録としては、大正4年に当番をされた方々の名前やその時にかかった経費などを記したものがありません。この帳面は、当時傘張りをお仕事としていた方が当屋の時、傘張りの紙を提供された。今まで残るほど丈夫な紙にも、長年大切に残していた方々にも、少しずつ変化している歴史を変わりない心で生きていると感じた。しかし、子どもの数もだんだん減って、数珠回しや、御詠歌もなくなった。また、鐘たたきも昔は代わるがわる、先を争ってたたいたものだった。盆踊りも楽しみの1つだった。変わりつつあるなかで、こちらは当番の方（当屋）の家の道路に面した座敷で、まるでお雛祭りのように、4段の段をつくり、お祭りをされていた。飾りとして、筒に花を付けたもの。餅花と言って、白・黄・赤・緑の色を付けた餅を丸めて糸に通してぐるぐる回してお盆の盛ったもの。灯明は天井から吊るしている。内孫外孫のために、去年と同じ様にお祭りしている。とのことでした。

B 1 の お地藏様について、衆福寺にお聞きしました。

中央の厨子のお地藏様は、以前小学校の校長をされていた、きたむら まさぶろう様からの寄付だという事で、詳しい事が分からないそうです。六地藏様があるのは、お寺にお墓があるからだそうです。お膳を設えるのは、この地の古い家の方達のならわしで、用意されている。この六地藏様の由来もはっきりしないが、約270年ほど昔に火事があり、その時にはあったそうです。言い伝えなので記録は無いそうです。14軒で3軒ずつの当屋をつくっています。石のお地藏様は夜泣き地藏として、多くの方の信仰を得ているそうです。

山ノ内

洋館

居初家

元・B1

家

・B2・B3

・B5

〒

内湖

・D1・D2・D3

・B6

・D5

元・本福寺

・B4

・A1・A2

・A3

・A4

・C2

・C1

・C3

・C4

・C5

・C6

・C8・C7

②中

②小

②高

R161

堅田ST

JR 湖西線

京都

資料

本堅田のお地藏様を見ました

番号	数	涎掛け	像	化粧	はこら	花・水・香	大きさcm	向き
A1	1	有	石像	有	有	有	20	東
A2	1	有	レリーフ	有	有	有	30	東
A4	2	有	レリーフ	有	有	有	30	西
B1	1	有	木像	有	厨子・お堂	お膳	60	東
B1	1	有	石像	無	お堂	お膳	70	東
B1	1	有	レリーフ	有	お堂	お膳	50	東
B1	6	有	石像	有	お堂	お膳	60	東
B2	1	有	レリーフ	有	有	有	20	北
B3	1	有	石像	有	有	有	30	東
B4	2	有	石像	有	有	有	20	東
B4		有	石像	有	有	有	30	北
B5	3	有	石像	有	有	有	40	北
B6	1	有	石絵がき	有	有	有	35	北
C2	2	有	石像	有	有	有	20	北
C2		有	石像	有	有	有	25	北
C3	1	有	石像	有	有	有・塩・米	20	北
C4	1の中2体	有	石絵がき	有	有	有	不明	東
C5	1	有	石像	有	有	有	30	北
C6	1	有	石像	有	有	有	不明	北
C7	1	有	石像	有	有	有	不明	北
C8	3	帽子	石像	有	有	有	30	西
C8		有	レリーフ	有	有	有	30	南
C8		有	レリーフ	有	有	有	30	南
D1	1	有	石像	有	有	有・花	30	北
D2	3	有	レリーフ	有	有	有	30	東
D2		有	レリーフ	有	有	有	20	東
D2		有	レリーフ	有	有	有	15	東
D3	1	有	レリーフ	有	有	有	50	南
D4	2	有	石像	有	有	有	50	西
E1		有	木像	有	有	有	50	西
石像はお寺から借りた。データは公表しないでほしい。								

3. 膳所のお地藏さんのレポート

小島ファミリー

7年前に膳所の木下町に引越してきてから、ずっとお地藏さんの多い町だなと思ってきました。2年前小学生の子供の自由研究にしようとカメラをもって街角のお地藏さんを捜して歩きました。調べた範囲は膳所城跡である膳所公園と京阪膳所本町を結ぶ通りより北側、膳所本町から京阪錦駅を結ぶ道より琵琶湖側、滋賀大付属小学校より南側、の区域です。

約20ヶ所に地藏さんを見つけました。子供達は「こんな研究したくない」とつき返し、お蔵入りになっていたものを、今回レポートと言う形で出せるのは幸いです。地藏さん及び地藏盆行事を調べて感じたことを雑多に報告します。

大きなお堂があり何十体もの地藏がまつられていたのは、北向き地藏と通称六地藏でした。北向き地藏には毎日お参りする人が多く線香とお花が絶えません。管理する人がいてお供えやよだれかけの交換や掃除などを行っています。実はわが家の庭にも二体の地藏が住む前からあり、ここにまつらせてほしいと言ったところ断られました。夜陰に上じて捨てに来る人が多く、年々管理が大変（経費がかかる）になってきているのだそうです。

六地藏の方は昔、相模川を越えて刑場にひかれる罪人が見返るように拝んだといういわれのある地藏ですが、50年程前にはお堂に子供達がむしろを持ってきて泊まったという地藏盆も、子供がたった2人になり行事そのものが行えない状態だそうです。

現在全体的に子供会より老人会の方が規模の大きい各町内も、少しずつ世代交代が進み新しい二世帯住宅が見られるようになりました。改築にともなって、家の中にあっただらしき地藏が道路側に出てくるケースも見られます。

どのようないきさつで、その地藏が作られたかは分からなくても棄てることもできず、だからといって、まつり方も分からず外に出てくることも多いのではないのでしょうか。

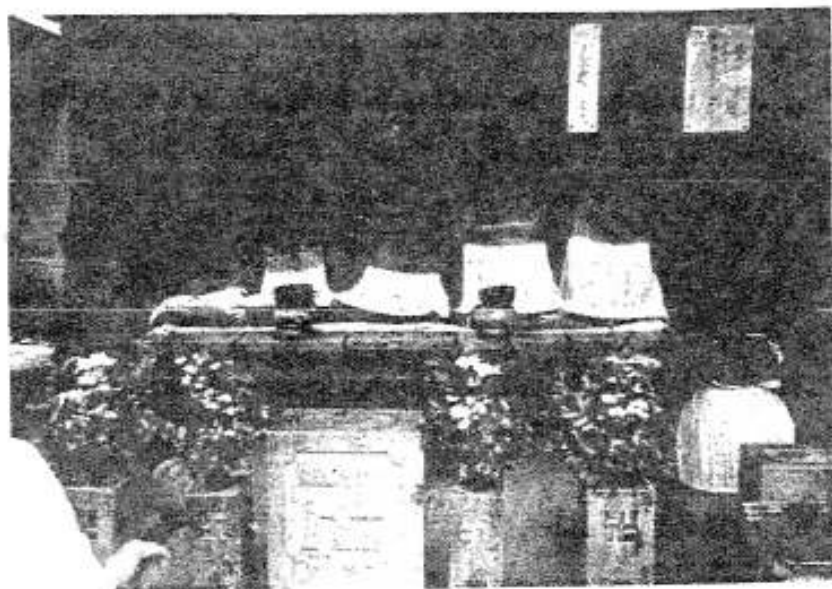
私の家も向こう三軒両隣みな同じ番号なので、かつてはひとつの地所だったらしい。それを分譲した時、最後に家を建てたこの家に地藏がきたという風に聞いています。またすぐ手前まで浜辺だったことから、水難にあった人をしのんだものではないかということですね。また北向地藏の近辺の地藏は、土地区画をしたとき何体かあった地藏群を各家がもらうけ、ばらばらにまつっているケースでした。

よく交通事故の多い交差点などに突然地藏さんが出現することがありますが、事故に遭われた人関係者がとだえてしまったりすると、そのいわれも忘れられ、ここまで書いてきたような運命をたどる地藏さんも多いのではないのでしょうか。

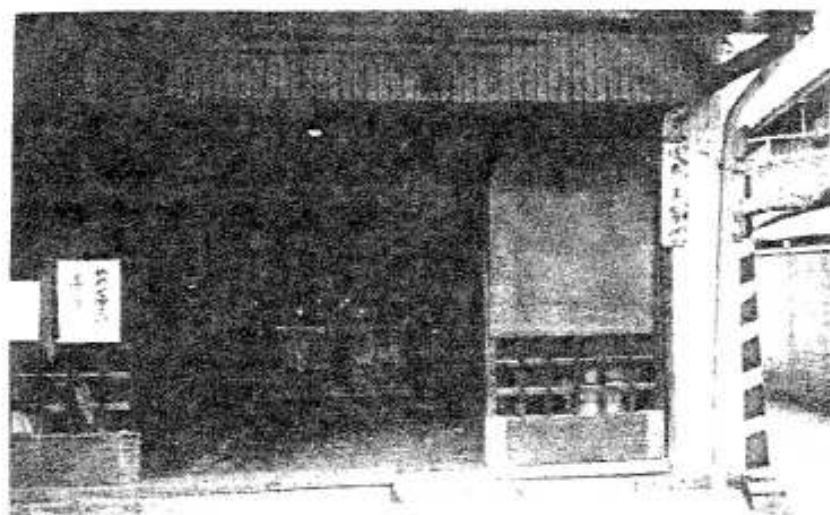
このあたりの地藏盆は旧町名の自治体単位で行われます。子供が一時期とても減ってしまい、そのころから子供が企画する行事から、大人がお金を出す行事へと変わってしまいました。子供はお菓子を山程もらい、それでも長老たちの出す寄付の方がずっと多くいつも大黒字の会計です。食中毒事件の影響で食事会もマクドナルドなどになってしまいました。地藏盆の地藏は以前は当番の家が一年まつっていましたが、今は寺があずかるケースと街角の地藏を近所のお寺にたのんで魂を抜いてもらって洗い浄め、移動させるというケースが見られました。祭壇の飾りは、木下町では京都のお寺まで習いに行ったそうです。

子供が灯ろうを作ったりした時もありますが、子供が減って途絶えてしまい、数が増えた現在も復活する様子がありません。

他の地域とくらべていないので、地藏さんの数や地藏盆の様子が違うのかどうか分かりませんが、宗教色が薄いけれど地域の子供達や人々の思いを表現する地藏さんをうまく生かした行事へのとりくみをや接し方をもっと考えてみたくなりました。例えば膳所児童館では子供を集めて地藏さんウォークラリーをしているそうです。こんな親しみ方もいいのではないのでしょうか。



北向き地藏さん



六地藏さん

4. 足洗川流域の野仏について

有田 重彦

今回の地藏盆調査で、自宅近くの足洗川流域のあちこちに多数の発掘された野仏が合祀されていることを見つけ、いろいろと追加調査を行ったところ、ある程度の知見が得られたので中間報告として取り纏めた。

1. 野仏の分布と数

足洗川は、日吉大社北部にある西教寺の横を、比叡山から琵琶湖に流れる長さ4km弱の小さい川であるが、その川沿いに分布する野仏の数と合祀されている場所は附表1（現時点の結果）、地図上では付図1に示すとおりである。

野仏の数が最も多いのは八講堂千鉢地藏の923体（五輪塔も含める）である。その現地説明板には、この地に八講堂と言う比叡山山下における論議法要の中心があり、日夜法要の賛音の聞こえるこの付近に野仏を立てて故人の成仏を祈ったとあるので（当時、比叡山延暦寺は学僧の修行の山で一般人は近寄れなかった。）、豪雨等による土砂崩れで散逸したそれらの野仏が、近世の田畑開発で（この付近はゆるい傾斜地で段々畑になっている）掘り出され、ここに集められたものである。この敷地は七間四方の延暦寺領であり、八月十五日に延暦寺の盛大な法要が行われている。八講堂近くの合祀野仏も同じ由来と見なされるのでそれらを合計すると1400体前後となる。

紅染寺跡（道路から20m程度の小高い岡）の野仏は前者に次いで多くその数は687体であり、大津市教育委員会の現地説明板によると、南側斜面の発掘調査で見つかった野仏を合祀したものである。この地は中の島居とも言われ、神体山である比叡山の礼拝所でもあったと書かれているが、古代の神体山信仰は仏教と集合して延暦寺の仏教信仰となり、前記の八講堂同様、山上の延暦寺に故人の成仏を祈るため野仏を立てたものと思われる。実際にこの岡の上に立って見ると比叡山（848m）の手前に日吉社の神体山である八王子山（378m）の輪郭が二重に浮かび、自然と頭が下がる思いがする場所である。紅染寺は足洗川北側にあるので、北側の近くの合祀野仏も同じ由来と見なせば千体に近い数となる。

調査した野仏の総数は2772体であるので、上記の数を差し引いた残り400体近い野仏の由来は次のように考えられるが、数量的に見て第2項が主体であろう。

- 1) 足洗川は別名あばれ川とも言われ（地元談）、またこの地域が比叡山山麓の丘陵地、傾斜地であって、百年に一回と言うようなレベルの豪雨による土砂崩れや土石流によって、八講堂や紅染寺周辺の斜面や道端、畦道に建立されていた石仏は、押し流されて広範囲に広がり、土中に埋没したものと考えることができる。
- 2) 織田信長の延暦寺焼き討ち（1571.9.12）によって、日吉社、西教寺等の寺社から延暦寺の門前町として繁栄していた上坂本の町屋まで二万戸が焼失するとともに僧俗男女三千から四千人が殺され、その死体は足洗川に累々としていたので（足洗川の名前は、この時に信長の兵士が血のついた足を洗ったことに由来している。）地元の人々が死体を埋葬し、その成仏を祈って石仏を作り足洗川流域に祀ったと言われている（坂本観光協会パンフレット、地元旧家談）。

2. 野仏の形状について

少数の特例を除いた野仏の共通する特徴は（足洗川の野仏の定義でもある。）次の4項である。

- 1) 土の上に建立するため下面は粗加工のままで平面でなく非自立型
- 2) 大きさは概略で、幅250mmから350、高さは400から600、重量は推定で50kg
前後の運搬容易型
- 3) 仏は坐像ないし上半身型
- 4) 材質は花崗岩

仏のタイプ・様式については、基本形式として屋根の有無と一人（一体）型か二人（二体）型か、それに仏像顔部の目鼻口の有無（それらが彫られているかのっぺらぼうか）、頭部は丸頭か如来型か、手の形（印相）は、手に何か持っているか（持物）等があるが、分類出来る範囲で（付図2参照）八講堂千鉢地藏の800体を調べると表1.の結果が得られた（八講堂以外の残りの野仏については今後調べる予定である。）。

表1. 八講堂千鉢地藏の形式分類結果

野仏総数800体

屋根の有無		顔部の目鼻口	仏の数	該当割合%
屋根無し光背型		明瞭型	一人型	7.6
			二人型	0
		無し・不明瞭型	一人型	42.4
			二人型	0.6
屋根付き型	左右柱無し	明瞭型	一人型	0
			二人型	0
		無し・不明瞭型	一人型	2.3
			二人型	0.6
	左右柱有り	明瞭型	一人型	0
			二人型	0
		無し・不明瞭型	一人型	27.4
			二人型	13.9
屋根無し光背型	欠損のため不明			3.0
屋根付き型	同上			1.6
その他（立像他）				0.6

1) 屋根の有無について

屋根の有無は50:45の比率で屋根無し型が少し多い程度である。屋根付き型は石の加工量が多く手間が掛かるが豪華タイプであり、富裕層の商人などが家族等の祈願に作らせたものと思われるが、地域的な慣習や加工業者の特色特技があるかも知れない。

2) 目鼻口が彫ってあるか

仏の顔面は明瞭に目鼻口を彫ったものよりも不明瞭型（完全に球面ののっぺら型と不完全な彫り）が多くて九割強である。本来は明瞭型であるべきものが不明瞭型になった理由として次の四項が考えられるが、比叡山山麓まで運

ぶために野仏が小型化されていることと、焼き討ち犠牲者の成仏を早く祈るため急いで作ったか、作らせたため手抜きの簡易型になったのであろう。

a) 顔の詳細まで彫る技術がない

特に製作者が石仏専門の石工でない場合

b) サイズが特に小さいため技術的に困難

二人型で屋根付の場合の頭の幅は3.5cm程度になり、目鼻口を彫るには技術的に、費用的（時間を含めて）に困難。

c) 納期上製作時間短縮のため手抜きの簡易型に

d) 豪雨の土石流による損耗摩滅。

3) 一人型と二人型の違い

一人タイプは全体の八割強を占めており下記b)項のケースは少ないようである。

a) 信長の焼討ち犠牲者を弔う場合は一人の簡易型が主体と考えられる。

b) 親を弔う場合や自分ら夫婦の極楽往生を祈る場合は二人型

c) 身内死者の弔い、その他の祈願（生活の安定、結婚、子授かり、子供の成長、病氣治癒等）の場合は一人型が主流であろう。

4) 誰が作ったか、石を実際に彫ったのは誰か

前述2) 項の顔の作り以外に両手、両足の彫り方にも丁寧な本格型と簡易型（手抜き、加工の稚拙）とがあり、次のようなことが考察される。

a) 本格型

家族の祈願などのため滋賀各地の裕福な商人、庄屋等が地元の専門石工に石仏を作らせ、船で浜坂本まで運んで、有難い比叡山山麓に据えたものであろう。地元の旧家のお年寄り（二人）は彼らのことを“お東衆”と伝え聞いている。

b) 簡易型

信長の焼討ち犠牲者を見たり埋葬したりした人は、一刻も早く死者の成仏を祈るため、拙速型の石仏を慣れないながら自作したり、石工に作らせたのであろう。火急の石仏作りには、山上の延暦寺築造の石垣工事を担当したと言われる穴太衆も慣れないながら一役を買ったかも知れない

3. 石仏と一緒に出土する五輪塔

表2. 八講堂千鉢地藏の五輪塔の数

五輪塔の種類	個数	全高cm	備考
4ピースの組立型	38	75-120	空輪と二番目の風輪は一体型
3ピースの組立型	4		上側3段が一体の型
上記以外の空輪の数	38		空輪と二番目の風輪は一体型
一体型五輪塔	43	35-55	
合計	123		

石仏とともに合祀されている五輪塔の数は合祀場所でかなりの差があるが、全体で石仏の25%程度である。

五輪塔（付図3参照）は小型の一体型と組立型があり、八講堂千鉢地藏の例では組立型が主流で65%を占めている。

組立型は散乱して出土するため行方不明の段（輪）があったり他用途に使われて欠落した段があり、組立てて再現（寸法もばらばらのものを正確に復元組立てることとは不可能と思われる。）されたものの数は少なく、ばらばらで積み上げられているものが多い。従って組立型五輪塔の数は、五段のトップにある空輪（突起のある球体で宝珠状）の数で代用した。

五輪塔については、石仏と同時に一緒に祀ったものか、五輪塔は墓石ではないのか、そうだとすれば人骨はなかったのか等の疑問点があるが今後の課題としたい。

4. まとめ

足洗川流域11箇所に合祀されている野仏についてその数量と形状の調査を行い、調査未完の段階ではあるが次のまとめを得ることが出来た。

1) 野仏の特徴は、非自立型（据付下面は平でない）、高さは50cm前後、重さは50kg前後の可般型、仏は坐像ないし上半身型、材質は花崗岩製の石仏。

2) 合祀されている石仏の総数は2235体、一緒に出土した五輪塔は537基。

3) 八講堂千鉢地藏の野仏の形式と推定されるその主たる由来は

- ・簡易光背式一人型 339体（全体の42%）は信長の焼討犠牲者弔いのため
- ・屋根付一人型237体（同30%）は身内死者の弔い等一般の祈願
- ・屋根付二人型は116体（同15%）は両親の弔いや夫婦の極楽往生祈願

4) 本来の祭祀場所は

- ・比叡山山麓の八講堂付近は一般の祈願
- ・紅染寺跡の丘陵付近も一般の祈願
- ・足洗川流域各所（八講堂、紅染寺跡も含む）は信長の焼討犠牲者の成仏祈願

残された今後の課題は次の3項と考えられる。

1) 八講堂千鉢地藏以外の1435体についての石仏形状別集計

2) 石仏形式の寸法を含めた詳細調査（県内各地の石仏との比較も含める）

3) 足洗川下流（比叡辻）の野仏調査

5. 参考文献

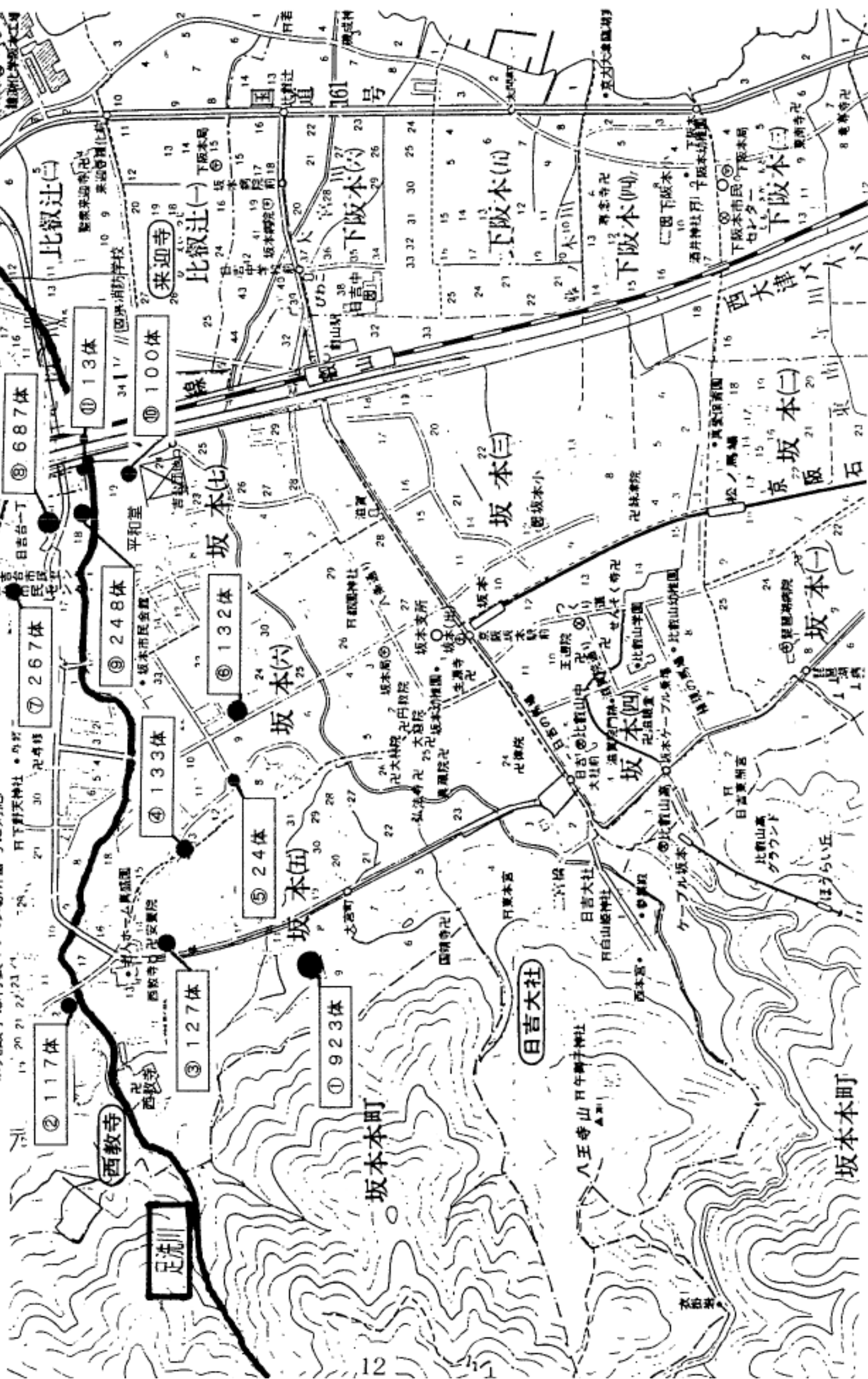
1) 比叡山三塔諸道巡拝記 武覚超 叡山学院 S62.

2) 図説 大津の歴史 上 大津市歴史博物館市史編さん室 大津市 H11.

+

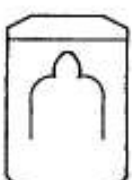
付図1. 足洗川流域に合祀された野仏の数 (合祀塔)

※丸数字は付表1. の場所番号に対応

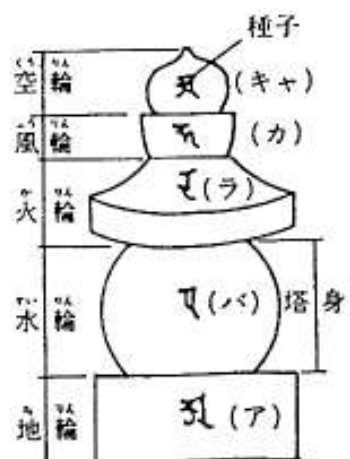


付表1. 足洗川流域の野仏の数

番号	合祀場所	石地蔵の有無	石仏の数	五輪塔の数	五輪塔の比率
1	八講堂千鉢地蔵 坂本5-10	無	800	123	15.4%
2	真盛園足洗川対岸 坂本8-12	無	94	23	24.5
3	安養院境内 坂本5-14		124	3	2.4
4	興玉神社入口前 坂本5-13	無	85	48	56.5
5	赤地蔵 坂本6-9		21	3	14.3
6	ぼっくり地蔵 坂本6-24		107	25	23.4
7	日吉台地蔵 日吉台2-14	無	235	32	13.6
8	紅染寺跡 坂本7-18	無	487	200	41.1
9	同上付近の足洗川 坂本7-19(8箇所)	無	195	53	27.0
10	あばらや地蔵 坂本7-22		83	17	20.5
11	足洗川改修現場 坂本7-34	無	3	10	333.3
		合 計	2235	537	24.0
			2772		

	屋根無し光背型	屋根付柱無し型	屋根付柱有り型
基本型			
簡易型			

付図2. 石仏の分類形式(一人型の例)



※空輪と風輪は一体型が殆ど

付図3. 五輪塔の構成

5 滋賀の「地藏」と地藏盆の歴史及びその特色

1、「地藏」の祀られ方（地藏の管理主体）

- ①地域地藏…地域にお堂（祠）を建てて祀られている地藏。町、学区、自治会などが単位。大津の旧市街地などは旧町内が単位になって祀られているのが特徴。
 - ②屋敷地藏…個人の家の前や庭に祀られている地藏。個人が代々祀る場合と、町内に子供がいなくなったことなどにより地域地藏が転化したケースもある。
 - ③お寺地藏…寺院で祭られている地藏。寺の本堂で祀られる本尊（文化財）の地藏と、境内にお堂を建て祀られる地藏、お堂のない露天の地藏などがある。地域の地藏盆が寺で開催されるケースや、地域の木像地藏のみ普段は寺で保管するケースも多々ある。
 - ④野地藏…通称「野仏」と呼ばれる。もともと辻や町の境界に祀られていた地藏と、近年増加した圃場整備や山地の開発、整備などで出土した石仏を1箇所にとまとめたケースがある。これらは古代・中世の寺院が廃絶後、周辺に散逸した地藏である。
- ◆①～④は寺の本尊を除いては固定的でなく、地域住民の紐帯の動向によって変化する。例えば新興住宅地で地藏を祀るため、寺の境内地藏や野地藏が地域地藏になるケースもある。地藏の生涯？も「世につれ人につれ」流転するようである。

2、「地藏（石仏）」の種類と製作年代

調査では約140地点の「地藏盆のお祭りをする地藏」の報告があった。調査票の記述をもとに、写真・イラスト、専門家の意見を参考にして石仏の種類、年代等を検討した。先行研究では、「石の地藏」と呼ばれる石仏の9割近くが中世（鎌倉時代末～室町時代の約250年間）に造立された小型阿弥陀如来石仏と言われるが（『近江 石のほとけたち』瀬川欣一、その他の先行研究による）、調査ではバラエティのある本物の地藏が多数報告された。おおよその目安として以下のような結果を得たが、正確を期するためには鋳掛けなどを外し全体像を観察する必要がある。

●石仏の数と種類

- ・概数として石仏の総数は約1300体、そのうち地藏は約150体、阿弥陀石仏が約900体、五輪塔などの石造物等が約50基、残りは不明分である。地藏の割合は約15%、阿弥陀石仏は全体の約70%で先行研究より少ないが、不明分の大半は阿弥陀石仏の可能性が高い。
- ・前述の④「野地藏」が1箇所に集められた地点を除く石仏の総数は約550体、そのうち地藏が約130体、阿弥陀石仏が約300体、五輪塔などが約40基である。①～③のお堂などに祀られる地藏は約25%、阿弥陀が約55%で、地藏堂には地藏像が祀られる割合が高い。
- ・調査地点140箇所のうち、1体のみ石仏を祀る地点は約40%で、残りの60%が複数の石仏を祀っている。また、「地藏なし」の地点は50%弱で、約半数が地藏像を祀っている。

●石仏の年代

- ・阿弥陀石仏は中世のものがほとんどだが、その中でも大津の旧市街地などではやや大型の丸みを帯びた石に浮彫りした鎌倉時代末（1300年頃）のものが多数ある。

- ・室町時代（1333～1573）に製作された箱仏（厨子・お堂を箱のように彫ることからの通称）は全域に分布しており、中でも小型阿弥陀如来の箱仏は最も数が多い。
- ・地蔵の中には石造だけでなく、木造のものも多数ある。また、中世だけでなく、近世、近・現代にも石造の地蔵が多数「地域地蔵」として奉納されている。
- ・中世の阿弥陀石仏が、現代において「地蔵」として祀られるようになった理由は不明だが、3の地蔵堂の創立年代で触れるように、地蔵を祀る地蔵堂が建立された後、周辺に散在する阿弥陀石仏をも祖先の供養として次第に地蔵堂に集めるようになったものと考えられる。

●地蔵、石造物に年号が刻まれているもの

- ・石幢に貞享3年（1686）8月11日の紀年銘…山東町志賀谷（*紀年銘のある県下で有名な^{石幢}。6面に地蔵立像を浮彫り。寺に奉納されたもの。）
- ・地蔵に宝永元年（1704）の紀年銘…高月町井口（*娘の供養のため寺に奉納されたもの。）

3、地蔵堂の創立年代（地蔵盆ないし地蔵祭りの定着時期）

調査では地蔵堂の石柱、石碑、石灯籠などに記載された具体的な年号として18箇所が報告された。年号は大半が近世（江戸時代）半ば以降のものであり、地蔵堂の建立が江戸時代の後半には開始されたことがうかがえる。同時に、地蔵盆を含む「地蔵祭り」が町方の庶民層に定着したのもこの時期と推定される。以下、判明した年号と所在地、内容等を略記する。

〔江戸時代〕

- ①延宝7年（1679）の紀年銘…大津市坂本の「阿波羅屋（あばらや）地蔵」の地蔵堂の石碑に記載。（*坂本6地蔵の一つ。6地蔵祭りが始まった時期か？元々は寺院の地蔵堂とも考えられる。）
- ②正徳年間（1711～1716）に井伊家が娘の供養に寄進…彦根市正法寺町正法寺境内（*記載場所不明）
- ③「享保16年（1731）地蔵を製作。文化4年（1807）に三井寺観音堂より玉屋町に移管」…大津市中央3丁目（玉屋町）の木造地蔵尊を入れる木箱の箱書き。（*玉屋町は大津祭りの湯立山を所有する町内。湯立山の蔵は文政12年（1829）建立の紀年銘あり。）
- ④寛政9年（1797）新調…三井寺町（神出町）の地蔵の供物を入れる菓子盆に記載。
- ⑤文政5年（1822）の紀年銘…志賀町八屋戸の地蔵堂の石柱に記載。
- ⑥天保11年（1840）の年号…安土町上出（*年号が何に記載されていたか不明）
- ⑦天保12年（1841）立蔵の紀年銘…大津市中央3丁目（瓢箪町）の地蔵堂の石柱に記載。
- ⑧弘化2年（1845年）の紀年銘…大津市札ノ辻北町の「北向き地蔵」の石灯籠。地蔵は室町末の作。
- ⑨慶応4年（1868）の年号記載…大津市木下町 敬願寺の道具箱の裏側（箱書き）。

〔明治・大正・昭和時代〕

- ①明治3年（1871）の紀年銘…大津市京町2丁目（後在家町）の地蔵堂の石灯籠
- ②明治16年（1883）の年号…大津市本堅田1-21-15の講中の資料に記載。
- ③明治24年（1890）の紀年銘…木之本町の地蔵院浄信寺境内の「木之本地蔵」銅像
- ④明治28年（1895）改築…大津市下坂本1丁目の地蔵堂の改築年。
- ⑤明治29年（1896）以降の建立…志賀町字北浜（*何に記載されていたか不明）
- ⑥大正14年3月（1925）お堂改築の記録…彦根市中藪町南部（*何に記載されていたか不明）
- ⑦昭和10年（1935）建立年の記載…びわ町川道の地蔵堂の額。
- ⑧昭和46年（1971）の建立年…甲賀町高野・茨谷宅
- ⑨昭和57年（1982）の建立年…彦根市大藪町（金城小学校前の公園）

4、特色ある「地蔵」いろいろ（歴史的・文化財的価値の高い地蔵の一例）

*は今回の調査票外の資料

- ・大津市京町2丁目（松幡町）の石造地蔵立像…室町初期の作（箱仏が作られた最初の頃）。中世の石

造地藏の優品。木造地藏は上記の玉屋町、石場と彩色が共通。

- ・安土町慈恩寺「ちはし地藏」…隠れキリシタンのマリアさまの伝承。石幢の身部に地藏像ふうの浮彫り。1体のみであることから、江戸時代になって隠れキリシタンが彫ったものか？
- ・安曇川町上古賀の石幢の地藏…石幢の台部の6面に6体の浮彫りの地藏。（＊幢身に紀年銘は？）
- ・志賀町八屋戸の地藏盆行事…閻魔縁起絵図の絵解きを僧侶がしている。地藏と閻魔が同体の資料。
- ・大津市馬場 義仲寺門前の巴地藏…近世の地藏菩薩立像の優品。黒色の玄武岩？巴御前供養の伝承。
- ＊甲西町慶少菩提寺の地藏…地藏立像3体。中央は鎌倉、左右は南北朝の作。国史跡。総文約2m。
- ＊西教寺の六地藏菩薩…地藏立像6体、天文19年（1550）の紀年銘。境内に天正12年（1584）の阿弥陀25菩薩あり。ともに石材は越前凝灰岩（通称・笏谷石）。
- ＊伊香町下在の旧安養寺境内の地藏…享保2年（1717）に坂田さんの祖先が奉納。総長1mの立像。これも石材は越前凝灰岩。湖西にはいくつか残存。

5、滋賀の地藏盆の特色

- ・地藏盆の行事内容で示すように、滋賀県の花地蔵盆は、数珠まわし、御詠歌、地藏和讃、閻魔絵解き、地藏講など古い行事形態が存続していること、お飾りなども多様で地域色があることが特色である。
- ・近世に始まった町方の地藏祭り・地藏盆は、近代以降、現代においてもゆるやかに広がる傾向にある。これは県下の各地域に、数百万体といわれる中世の阿弥陀如来石仏が散在し、それらがさまざまな機会に出現し、「地藏」として祀られるようになった結果でもある。

6、地藏盆の現代的意義と今後の課題

●現代的意義

- ・「地藏（石仏）」を通して祖先の歴史を偲び供養する心を育てる⇒地域の歴史を身近に追体験。
- ・「地藏（石仏）」を通して、子供の健やかな成長と未来の平安を祈念する⇒過去と未来を結ぶ。
- ・地域の花地蔵盆はゆるやかな結び付きで行なわれ、地域の紐帯（コミュニケーション）を確認する場であり、さまざまな宗教・宗派の人が参加できる場である⇒脱宗教的な横のつながり。
- ・子供の祭りとして、新しく生まれた子供（里帰りも含む）や新しく転居してきた子供などが年齢を超えて集うことができる。⇒地域デビューの場。



「花地蔵盆は成熟した市民社会の地域文化システム」

●今後の課題

- ・今回の調査件数は県下の花地蔵盆の1割にも満たない調査数と考えられる。調査方法を検討・確立し、長期的スパンで調査を継続する必要がある。また、調査にあたっては相互学習・研修等を実施し、より明確な資料的価値の高い調査を実施する必要がある。
- ・庶民の文化・信仰として展開した花地蔵信仰、花地蔵盆は、長らく研究者の調査研究対象とされなかった経緯がある。特に花地蔵堂で祀られる「地藏（石仏）」はほとんど手が付けられていない。これらは庶民の文化、仏教の庶民化の歴史を検討する上で学術的に重要な資料である。文化財的価値の高いものも多数あり、地域住民とともに地域の遺産を見直すチャンスである。
- ・5で述べたように、御詠歌・花地蔵和讃など県下の花地蔵盆にはかろうじて残る貴重な行事が多々ある。いわば無形民俗文化財のようなこれらの行事の将来を考える上で、詳細な調査は急務の課題である。

●写真説明

- ①鎌倉時代末頃の小型阿弥陀石仏「川端地藏」…丸みを帯びたやや小型の石に浮彫りした阿弥陀如来石仏。初期の石仏は河原などの自然石を利用し製作。右の阿弥陀石仏はやや大型（大津市瓢師町・松田撮影）
- ②鎌倉末と室町時代の箱仏が一つ屋根の下…（大津市松本・松田撮影）
- ③弘化3年（1846）の年号が記載された敷物を敷く「世継地藏」…①と同様「地藏」と呼ばれるが、調査者の観察では中世の小型阿弥陀如来の箱仏。（草津市大路・小林光子撮影）
- ④近世の地藏坐像…近世以降の地藏は石工の技術や工具が発達し丸彫りになる。（大津市下平蔵町・松田）
- ⑤近世の地藏菩薩立像の優品「巴地藏」…黒色の玄武岩製？（大津市馬場 義仲寺門前・松田）
- ⑥安土城の石垣や道路の石材にも活用された小型阿弥陀石仏…箱仏が安土城築城（1576年）以前の製作であることを証明する歴史資料。八幡城跡や京都・二条邸跡などからも出土（安土城・武田 繁撮影）
- ⑦天保12年（1841）立蔵の紀年銘のある石柱…地藏堂左前の石柱の横面に年号。近世以降の石柱、灯籠等には奉納者名と年号が必ず刻印されているので調べて欲しい。（大津市中央3丁目瓢師町・松田）
写真右の木造地藏は普段は寺で保管。地藏盆の時に町内に出てくる。（武田 繁 撮影）
- ⑧享保16年（1731）作の箱書きのある木造の地藏…文化4年（1807）に三井寺観音堂より玉屋町に移管。
箱には箱書きと呼ばれる由緒が記載されているので注意してほしい。（大津市中央3丁目（玉屋町）・松田）
- ⑨室町初期の箱仏の地藏の優品…総長80センチほどの立像。錫杖がおでんのようなもの。錫杖が短くて頭が大きく、木ぐつのようなものを履き、左右対象に製作されていることが中世の地藏の特徴。一緒に祀られる小型の木造地藏は彩色が玉屋町、石場の地藏と共通。（大津市京町2丁目松幡町・松田）
- ⑩貞享3年（1686）の紀年銘のある石幢…指定文化財。石幢の身部の6面に地藏の浮彫り。
（山東町志賀谷・口分田政博）
- ⑪石幢の地藏…⑩と同じく、石幢の身部の6面に地藏立像の浮彫り。（安曇川町上古賀・平井政一）
- ⑫隠れキリシタンのマリア伝承「ちはし地藏」…石幢？の身の部分に浮彫り。一体しか彫られていないことから、江戸時代に隠れキリシタンが地藏に似せてマリア像を彫ったものか？上部の突起は屋根状の頭部をはめ込む部分。（安土町慈恩寺・中村かおる報告/松田撮影）
- ⑬閻魔縁起絵図の絵解き…地藏と閻魔は同体といわれるが（『日本霊異記』ほか）、それを示す珍しい例。
地藏盆の日に寺で僧侶が閻魔絵図の絵解きをしている。（志賀町八屋戸・中川朋子）
- ⑭地藏堂内に奉納された「地藏和讃」…額の裏には奉納年月と奉納者名が記載してある。（大津市馬場西町・松田）
- ⑮鎌倉、南北朝の地藏立像…総長2米ほどの地藏菩薩像の優品。（国史跡・甲西町廃少菩提寺・松田）
- ⑯永正16年（1519）の紀年銘のある地藏立像…（甲西町菩提禅寺・松田）
- ⑰中世の地藏の典型…写真を見たら、像の左下部と右部に文字らしきものを発見！（石部町東寺・松田）
- ⑱天文19年（1550）の紀年銘のある六地藏…指定文化財。石材は越前凝灰岩（通称・笏谷石）。
（大津市坂本 西教寺境内・松田）
- ⑲宝永元年（1704）の紀年銘のある地藏…石材は伊吹山の石灰岩（高月町井口・本田靖子報告/松田写真）
- ⑳享保2年（1717）の紀年銘のある地藏立像…近世の地藏立像の典型。石材は㉑と同じく越前凝灰岩。



① 鎌倉時代の阿弥陀石仏「川端地蔵」…大津市獵師町・松田
(中世の阿弥陀石仏)



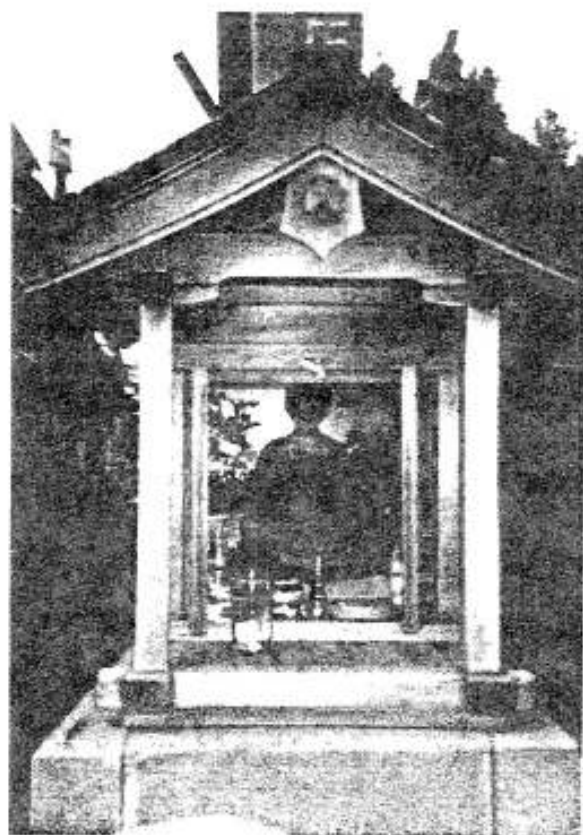
③ 弘化3年(1846) 銘の敷物をもつ「世経地蔵」…草津市大
小林光子 (中世の小型阿弥陀石仏)



② 鎌倉と室町の箱物が一つ屋根の下…大津市松本・松田

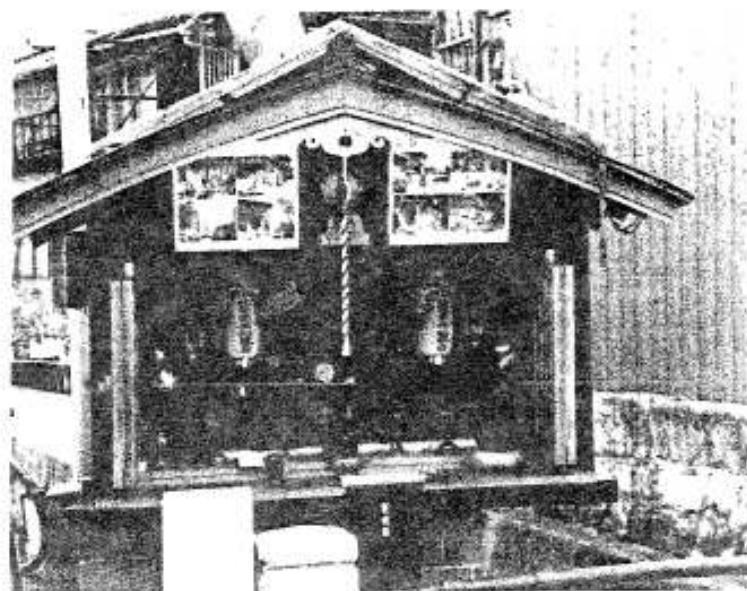


⑤ 近世の地藏菩薩立像の優品「巴地藏」…大津市馬場 義仲寺門
前・松田



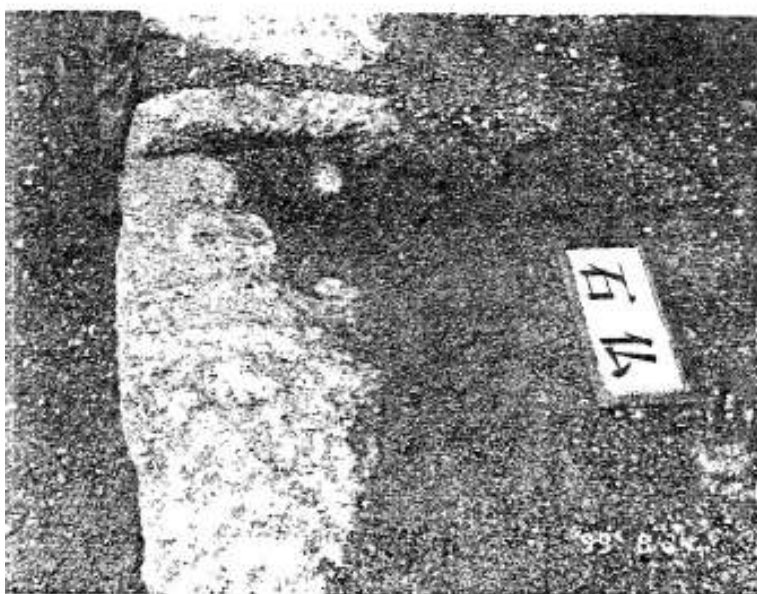
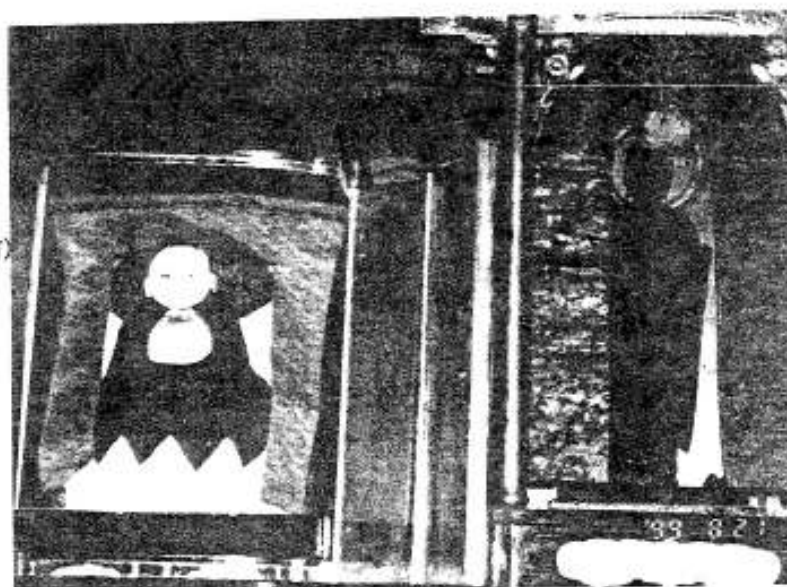
④ 近世の地藏坐像…大津市下平蔵町・松田

近世の地藏は丸彫りが特徴

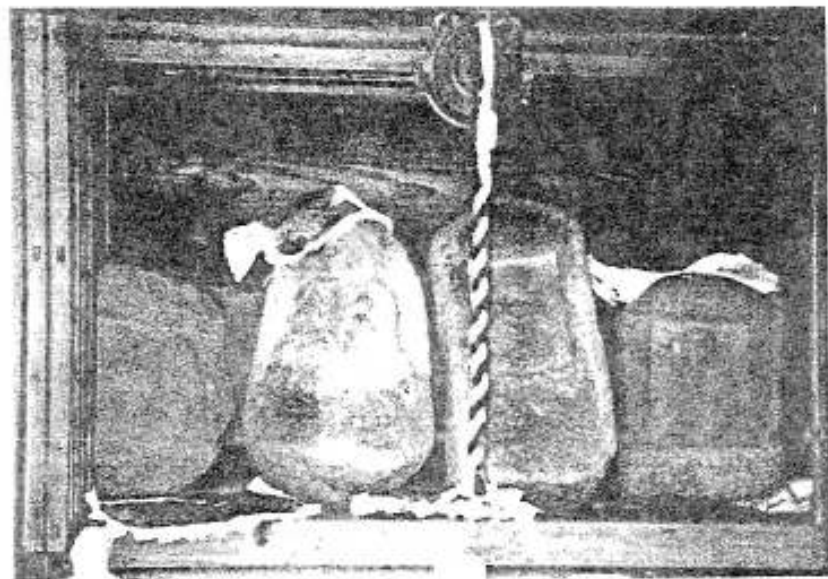


⑦ 天保12年(1841)立蔵の石柱…大津市中央3丁目(狹師町)

松田 木造地蔵は普段は寺で保管/写真・武田 繁



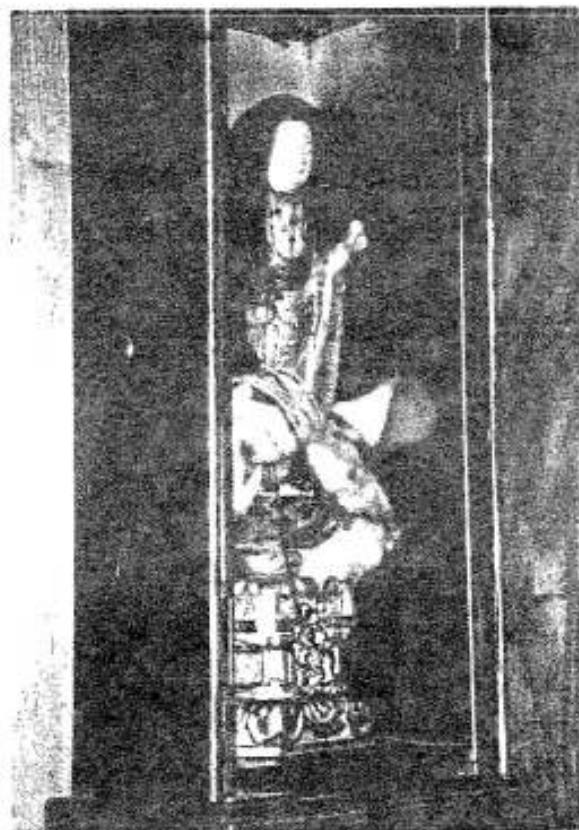
⑥ 石垣や道路の石材にも活用…安土城・武田 繁

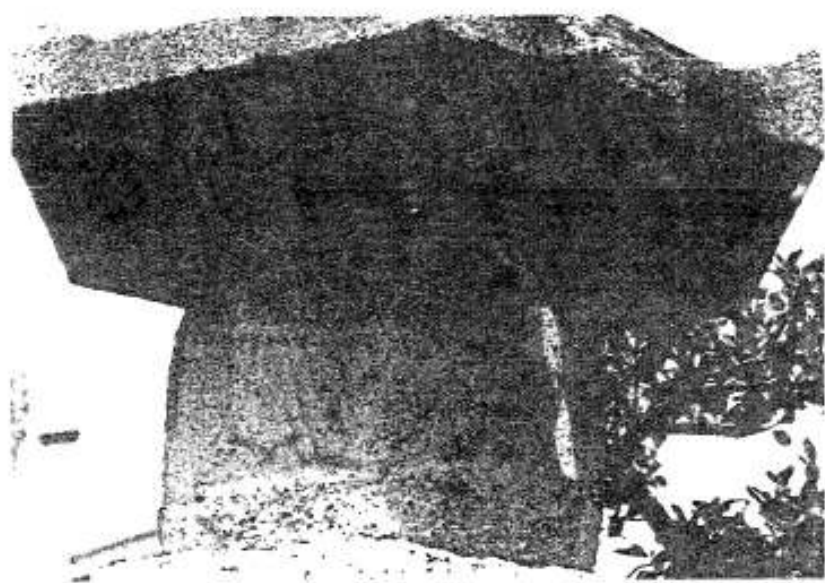


⑧ 享保16年(1731)銘の地藏…大津市中央3丁目(玉屋町)・松田



⑨ 室町初期の地藏立像の優品(おでん地藏?)…大津市京町2丁目(松幡町)・松田 木造地藏は玉屋町、石場と彩色が共通

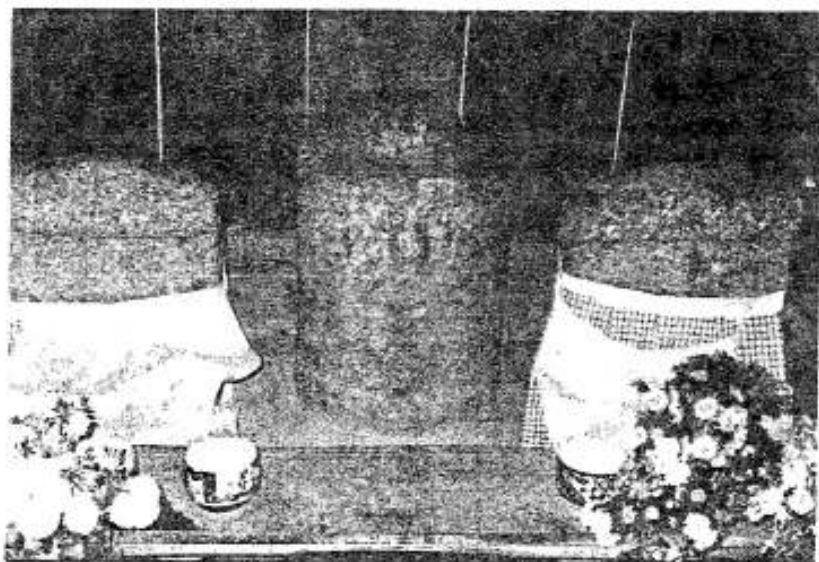




⑩ 貞享3年(1686)銘の石幢…山東町志賀谷・口分田政博



⑪ 石幢の地藏…安曇川町上古賀・平井政一



⑫ 隠れキリシタンのマリア伝承「ちはし地藏」…安土町慈恩寺・
中村かおる

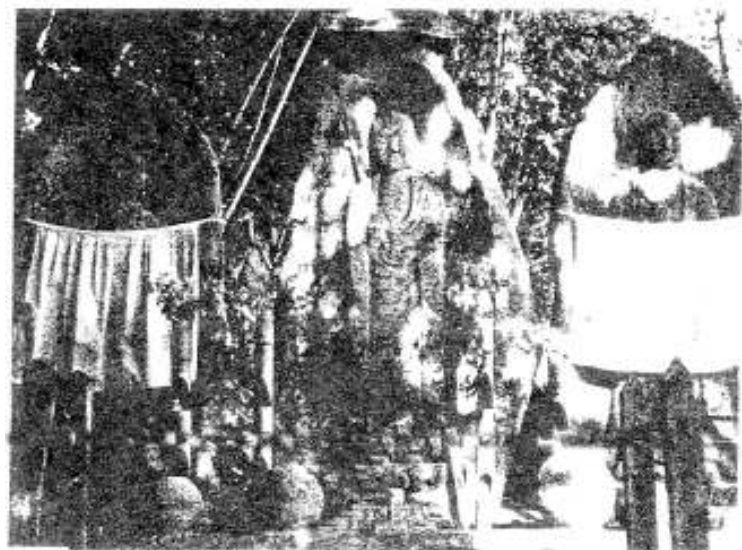


⑬ 関東縁起絵図の絵解き…志賀町八屋戸・中川朋子

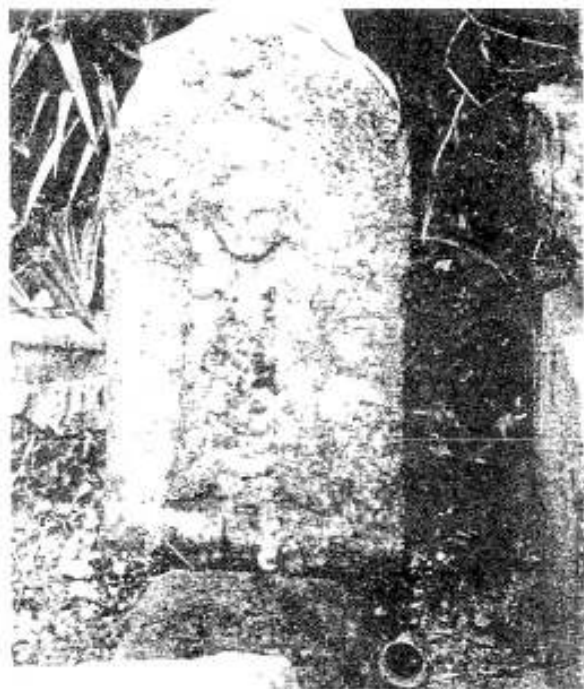


⑬ 地藏堂に奉納された「地藏和讃」…大津市馬場西町・松田

額の内には奉納年月と奉納者名が記載してある



14 鎌倉・南北朝の地藏立像…国史跡・甲西町麻少菩提寺・松田

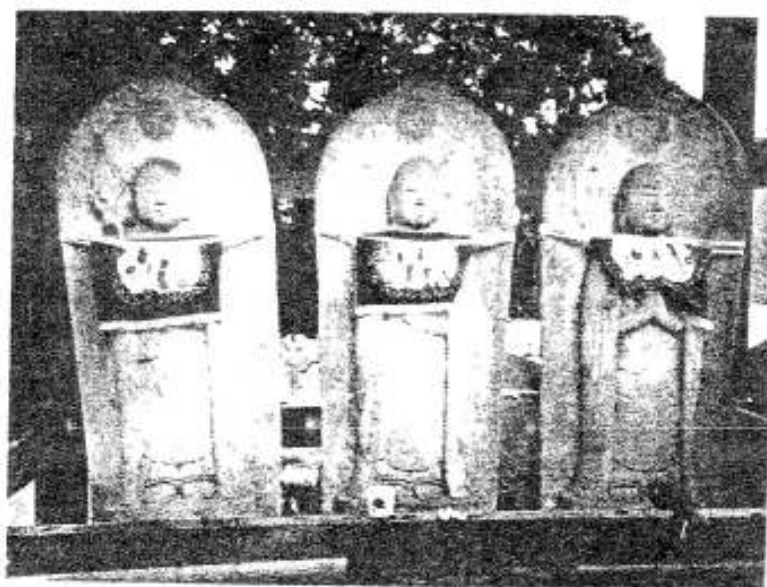


16 中世の地藏の典型…石部町東寺・松田

〔写真を見たら文字が書いてあった！〕

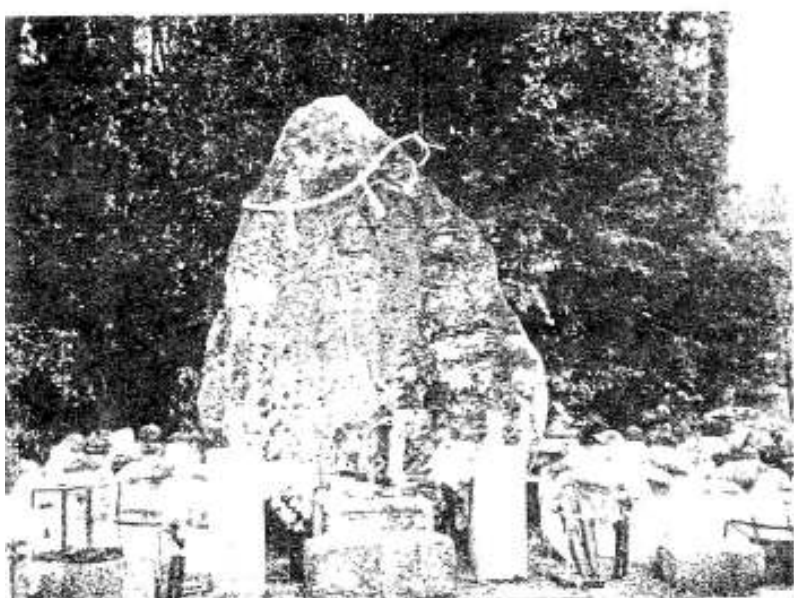


15 永正16年(1519)銘の地藏立像…甲西町菩提禪寺・松田

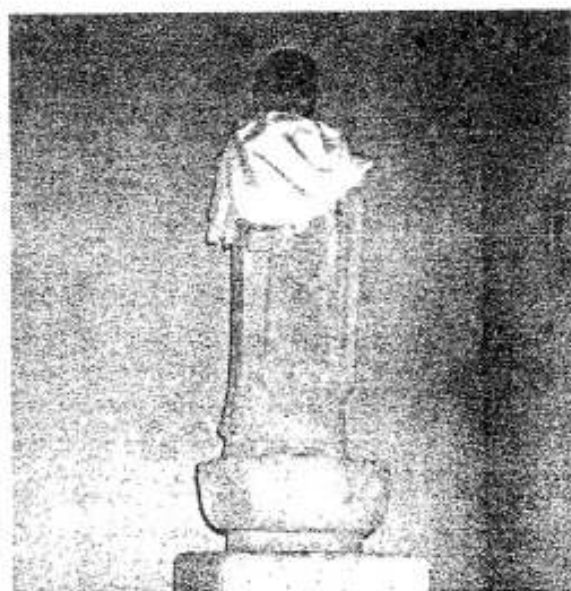


17 天文19年(1550)銘の六地藏…大津市坂本 西教寺境内

石材は越前凝灰岩(通称・笏谷石)・松田



18 宝永元年(1704)銘の地藏…高月町井口・本田靖子報告



19 享保2年(1717)銘の地藏立像…

6. 地蔵盆の様式のちがい

前田 雅子

調査票を読ませていただくと、一口に地蔵盆と言っても、いろいろな様式で行われていることがわかります。一番多かったのは町内や子供会が主催する「子供のための地蔵盆」で、全体の6割くらいがこの様式でした。その他、町内主催でも「大人が主体の地蔵盆」や、近所の数軒で行うもの、さらに個人やお寺などが主催する地蔵盆もあります。

特異な様式としては、彦根市の「女の子の地蔵盆と言われ、女の子だけがお寺に招かれる」、大津市の「神社で自治会の行事を行い、併せて個人宅の地蔵めぐりをする」というのがあり、多様な地蔵盆の様子がうかがえました。

地蔵盆を経験されている方はそれなりのイメージをお持ちでしょうが、まさに『所変われば品変わる』です。今回寄せられた137地点の地蔵盆を、行事の主体・主催・内容の観点から、次のようにまとめてみました。

行事の主体	主催者	特徴や行事内容・目的
◎子供が中心	子ども会	子供だけで行事の計画を立てて実施する。 ほとんどの所は親が子供の遊びを準備し、手助けする。
	・自治会等	遊び（ゲーム、作り物、福引き、おやつ等）が中心だが、お参りや読経がある所もある。子供の成長を願って行う。
	・お寺	一般の子供が招かれて参加するケース。
◎大人と子供 （地域の人）	自治会等	「地区の地蔵盆」という意識があるように思われる。 福引き、カラオケ、模擬店、灯籠流し等、多彩な行事。
	・近所の人	近所の数軒が集まって行う。 どちらかというと農村地区に多い。
	・有志 グループ	「お地蔵さんを祀る有志」「古い家筋の人」「決まったグループ」などの表現がされていた。宗教的内容が多い。
◎大人が中心	自治会等	お地蔵さんを供養する性格が強い（子供の遊びがない） 所、少子化で子供の参加がない所、親睦的な行事（福引きやゲートボール）をする所がある。報告件数は少ない。
	・地蔵講	宗教的行事内容が濃い。 講中だけで行う所と、地区の行事として行う所がある。
	・信仰する人	そのお地蔵さんを信仰する人達が御利益を願い、或いはお礼に遠方より集まる。
◎家で祀る地蔵の地蔵盆		家人で行うだけでなく、飾り付けや近所に配りものをする家の報告がある。立派な地蔵盆をする所もある。先祖供養や家族の息災を願う。
◎お寺の行事としての地蔵盆		お寺の日曜学校や、お寺の法要として行うもの。

けれどもこんなに違いがあると、「地蔵盆って何だろう？」と考えてしまいます。地域による差異なののでしょうか？そこで、「できたら調査」の第6項「どういう組織、人々が主体になって実施されていますか？」の欄にある主催者や主体者の記述を手がかりに、各地点の主催者の別を、市町村ごとの表にしました。

地 蔵 盆 の 主 催 者

市町村	調査地点	自治会等	近所	子供会	有志・グループ	個人	お寺	地蔵講	その他	未調査
大津市	48	35		2		7		3	自治会と個人 1	
草津市	16	9		1		2	1			3
栗東町	3	1		1		1				
守山市	1			1						
近江八幡市	3	3								
五箇荘町	1	1								
甲西町	1	1								
甲賀町	3	1	2							
信楽町	4			1						3
土山町	3	1								2
日野町	2			2						
八日市市	1	1								
安土町	3	1	1	1						
彦根市	11	6		1			3		信仰する住民 1	
米原町	2	1								1
虎姫町	1			1						
びわ町	3			1		2				
山東町	3				1					2
湖北町	4	1	1			1				1
高月町	2	1		1						
木之本町	2	1					1			
志賀町	6	3		2					信仰する人 1	
安曇川町	2		1	1						
新旭町	3	1			2					
朽木村	1	1								
マキノ町	6				6					
京都市	1	1								
場所不明	1	1								
計	137	71	5	16	9	13	5	3	3	12

上の表からわかったことは次の通りです。

1. 地蔵盆の行事は県内に広く分布している。
2. 自治会等（町内会、区、組、旧町内、^{かよ}垣内を含む）の主催が約半数で、一番多い。
3. 子供会は共催の形をとることが多く、主催は「自治会」というものが多い。特に地蔵盆が盛んといわれる大津市、草津市、近江八幡市、彦根市ではその傾向が強い。
4. 今回、地蔵講の報告は3件あった。偶然かもしれないが、「お地蔵さんの里」と言われる大津市坂本に近い、下坂本と穴太である。

残念ながら、今回の調査からは様式のちがいを掘り下げることにはできませんでした。けれども、おぼろげながら見えてきたこともあります。この様式の違いは①行事の主体は誰か？②どこが主催するのか？③地蔵盆をする目的や人々の願いは何か？によって生じるのではないか。さらに④お地蔵さんの由来もかかわりがあるだろうという推察です。調査された皆さんのご意見を是非お聞かせ下さい。